二次元ドリームコミックス

囚われた美少女捜査官 神代さくら THE COMIC

最終話

成年コミック

漫画：助三郎
原作：筑摩十幸
キャラクター原案：孤裡精

最終回
通常の1.5倍！
46大増ページ!!

CONTENTS

003
最終話

050
巻末特典 ifショートストーリー最終話
（小説：筑摩十幸　挿絵：助三郎）

※『巻末特典ifショートストーリー最終話』は、二次元ドリームマガジン vol.119掲載の筑摩十幸コラムの内容を一部修正して再録したものです。

綾瀬かやのを落札されましたのは佐竹権蔵様！

おめでとうございます！

ザワ ザワ

ザワ ザワ

競り負けたか あの娘 前々から 狙っておったのに……

惜しかったですな

しかし 本日の 目玉はなんといっても 次ですからの

それでは本オークション 最後のスレイブドールを 紹介します

我が グランバート学園一年生 現役魔薬特別捜査官…

最終話

神代さくら！
奇しくも今日は
彼女の父親の命日
会場の隅に遺影も
用意しておりますわい
では さくらちゃん
お父上とお客様に
どんな身体になったか
説明するのじゃ

はい…
おしゃぶり しやすいように 歯は全部抜歯して すべてシリコン製に
舌と口内 喉にも 真珠を入れて いただきました
噛めない上に 味覚もないらしいぜ
魔薬捜査官が いい様だな
胸はホルモン注射と 脂肪注入でFカップに
ウエストを細くする為 肋骨を二本ずつ 取ってもらいました…
それで あのウエストの細さか 心肺機能が落ちて まともに運動もできまい
ヒヒヒ…… でももう一生 ベッドの上でしか 運動することも ないでしょう

お尻も脂肪注入で
ボリュームアップして
淫乱な私に…ピッタリな
入れ墨をしていただきました

SEX SLAVE

そして…
オマンコは…

永久脱毛して
クリトリスは包皮を切除
ピアスをして
感度を上げてもらいました

嫌こんな…恰好
大勢に見られちゃうう
オマンコの奥見られちゃうう!

で…でも…あぁぁ♥
身体の芯が火照(ほてって)ってきちゃう!?

Gスポットやポルチオなど
膣内に真珠も埋め込んで
いただいています

シンがいる…!
無事だったんだ…

救助が来れば
皆で帰れるんだ
それまで耐えなきゃ!

さくらは救助が
来ないことを
知らない!

教える手段も
ない…!

なに俺の女にガンくれてるんだよナナシ？
ガシッ!!
ガイ！
ひひ…まぁイイか…
もうすぐこいつでさくらをイき狂わせる様を見せつけてやるぜ
なに…あのペニス真珠が入って形がさらに凶悪になってる！サイズも大きくなってない!?
ズン!!

前のペニスでも狂いそうなほど何度も絶頂させられたのに…

あんなモノ挿入されたらどうなっちゃうの……？

はぁ♥

だめ…熱い…下腹部が熱くなって…これ子宮が疼いてるの？

それに…何…胸が高鳴ってくる…？まるでシンと初めてした時みたいに…

ふふ…発情した雌の貌になってるわ

ガイ様のでかチンポに一目惚れしちゃったのね♥

母様!?

登壇の女性は
さくらの母親の慶子(けいこ)です
実の母娘でのレズプレイを
ご堪能ください

やめて母様
私はそんなんじゃ…

チンポ見ただけで
マンコが口開けて
涎(よだれ)垂らしてる娘が
何を言っているのかしら?

純真な娘だったのに
すっかりチンポ好きな
雌豚になったのね さくら

ほら こんなに
グチョグチョ
じゃない♥

あっ♥
あっ♥
ワレ♥
ワレ♥
ワレ

迎え腰しちゃって♥
よく仕込まれてるわね
母様 上手すぎるぅぅ！
腰 勝手に動いちゃうのぉ
ダメぇ もう もう
イっちゃいそうぅ

さあ お客様方の前でアクメをさらすのよ
そ…そうだ…こ…こんな大勢の前で！
ダメぇ お母様ぁ！
何言ってるの？視線を意識したらオマンコ嬉しそうに締めつけ強くしてるじゃない♥
このど淫乱娘!!
ぎり!!
ぎり!!
ぎり

クリトリスを捻られてイくなんて変態になったわね♥

そんな淫乱な貴女(あなた)にプレゼントをあげるわ

ひっ!?

母様知ってるでしょう…私 蛇は…

ええ 蛇は苦手な「女の子」だったわね

でも 貴女はもう「女の子」じゃない…「雌」よ

これをペニスとして見たら どう感じるかしら♥

う……大きくて…逞しそう…

わ…私 何を…

どうなっちゃってるの？
私こんなこと…
でも…弾力凄くて…
ドキドキしてくるぅ
ペチャ♥
ペロ♥
ハハ♥
ん。

凄い猛々しいのぉ♥
ん…んんうぅ
喉の奥までくるうぅ♥
これガイのチンポ以来いい！
ペロ♥
ぐちゅ♥
んん♥
ぐぷ♥
ゾクッ♥
ゾクッ♥

ふふ…
すっかり
開いて
オマンコは
その気になった
ようね
ペロ♥
クチュ♥

挿入れられちゃう
這入ってきちゃう蛇がぁ
ゴゴゴ
あっ
あぁ
あ
クチュ
あぁぁぁぁぁ
あぁぁぁ 大っきいっい
ズルッ

来てるうう
奥までええ！
あぁぁん♥
ガイ並みに奥まで来るっうう！
膣内の感度
あがってるうう！
ああぁ
子宮突かれてるうう！
うふふ
もっと奥があるでしょ
子宮も
改造済みなのよ♥
いや！子宮口が
押されて開いちゃうううう！
だ、だめぇ！
ぐ!!
ぐぐ!!
ぐぷ♥
ぐぷ♥
ぐぷ♥

子宮に這入っただけじゃない…
蛇…子宮口に頭をひっかけて…
クイッ!!
グッ!!
子宮…
引きずり出されるぅぅ!
ドッ!!
ズルッ!!
うほう!
母娘そろって
子宮をマンコから
ひり出すとは!!

さあ さくら
これからが
本番よ♥

カチッ!!

ピアス同士を繋げた

そんなこと
したら…

カチッ!!

チャ!!

♥おほぉ♥

ひいいいい！
乳首いい！
いひいいいいい！

おほお♥
乳首いいい♥

あっ
ひっ
ゼチッ!!
ゼチッ!!
クリトリス潰れるうう
ぎゅム!!
ひいいい
伸びるうう
ちぎれるうううう♥
痛いいいひイイろぉぉ♥
痛いいひイイひい♥

母様らめええ！
さくら…もう
壊れちゃうううう!!
元・検察官と
捜査官の母娘の
変態ショーか
ヒヒヒ…
くく…
こんなレズビアンショーは
此処ならではだな
蛇チンポ
イいいい♥
イクイク
ひいいい♥
仕上げよ
しっかり受け止めなさい
!?
ドッ!!

ギッ!!
ギチッ!!
ギュウ♥
ギュン♥
ゼッ!
ゼッ!!
ゼッ!!
ほ♥
ほ♥
ほ♥
ほ♥
ほ♥
ほ♥
ほ♥
ほ♥

気持ちよすぎて身体がバラバラになるかと思った…
こんなの初めて…なのに……どうして…
子宮が疼く…ああ…欲しいのぉ
オマンコにチンポズコズコ突っ込んでほしいのぉ

息も絶え絶えに見える
さくらちゃんですが
子宮をたっぷり刺激され
欲情中
チンポが欲しくて
仕方ない淫乱娘に
なっております…

三週間の禁欲の後に
子宮への過剰な刺激…
…そう 今のさくらは
正にチンポに飢えた
飢餓状態じゃ

そこで二本のチンポを
用意しました

そこに用意された
己を満足させられる
極上の豪華ディナー

一本は我が息子
ガイのデカマラ

もう一本は
さくらちゃんの彼氏
シン君の
粗チンでございます

もう一方は飢えを満たせる
見込みのない粗食

さあ さくらちゃん
好きに選んでよいぞ

どちらを選ぶかなど
分かりきったこと

さあ 己がどれだけ
淫乱なのか
実感するとイイ

挿入れたい
チンポを
舐めるんじゃ

そんなの…
シンのに決まって…

間近で見るとなんて大きさ…

形…凶悪になってる
しかも…大きさも前より…

エラが大きいの…これでゴリゴリされたらぁ……

それに
凄い雄の匂い…あああ…

え……？

私…いつの間に…
ガイのチンポの近くに……

ヒヒヒ…
ほらよ……

このチンポ凄いいい
なんて熱くて
雄々しいのぉ
触れているところから
雄のエキスがしみ込んでくるみたい…
舐めたい
少しだけでも
雄の匂い…
熱い……熱い…
たっぷり詰まった
精液の香り…
堪らないのぉ
濃厚な雄の味いい♥
さくら!?

ダメ…止めなきゃ……！
口離さなきゃ…
ああ 美味しいい♥
獣のような匂いに
荒々しいチンポぉ♥
咥えるとわかるぅぅ！
前より大きくて逞しいのぉ♥
チンポぉ♥
凄いチンポほぉ♥
この逞しいので
さくらのマンコ
ズコズコして
欲しいいい♥
あぁぁ喉擦られるの
気持ちイイぃ♥
これオマンコに
挿入れたいのぉ♥
ダメ…
そんなことぉ
さくらちゃんは
もうガイのチンポに
夢中のようですな
ワシの計算通りよ
もうガイのペニスから
離れられまい
彼氏の前で
他の男のチンポを
あんな嬉しそうに舐めて…
チンポ好きすぎ
でしょ？
本物のビッチね
あ♥
こんなこと止めなきゃ
シンも母様も
大勢も見てるぅ
やだ
でもこのチンポ欲しい
欲しいのぉ

そう 私チンポ好きぃ♥
硬くてぶっとい
チンポ大好きなのぉ♥
分かっちゃった…
私 本当にチンポが好きな
淫乱なのぉ♥
チンポ好きぃ♥
淫乱自覚したらぁ♥
感度上がってるうう♥
おいおい
チンポしゃぶりながら
腰くねらせてるぜ
嬉しそうに舐めやがって
発情した雌豚だな

ヒヒヒ…
ほれ ほれ
あ
あ
ゴイ!!
ゴイ!!
ゴイ!!
さあ
さくらちゃん
どっちのチンポを
挿入れて欲しいか
皆に聞こえるよう
言うんじゃ

シン……
ごめん…ごめんね
私……
さっき教えた通り言えよ
ガイ様のチンポ大好きになっちゃったのぉぉ♥
シンの粗チンなんていらないのお♥
あぁぁ♥
チンポ♥
このチンポほしいのお♥
ガイ様のでっかいおチンポでさくらのオマンコ滅茶滅茶にしてくださいい♥
ヒヒヒ…ご褒美をくれてやるぜ
チンポ♥チンポ来るぅ♥

し……子宮がチンポで膣内にねじ込まれ…♥
ズボッ!!
ズボッ!!
ズボッ!!
ズボッ!!
ぐいっ!
ぐいっ!
チンポ♥
チンポ♥
チンポほおおお♥
大好きなチンポとセックス幸せらのおお♥
あああ幸せええ♥
子宮突かれてるぅ♥
ゴリゴリしてこのチンポ最高♥
ボッ♥
ボッ♥
ボッ♥
ボッ♥

ほあああ♥ イってるぅ♥ イってるのにゴリュゴリュくりゅのおほ♥
ひひ チンポ止めてほしいのかよ？
らめぇ チンポ好きらのぉ♥
イきながらチンポ好きひ♥
この淫乱豚女がよ！

乳首捻られて
マンコ
悦んでんじゃ
ねーか！雌豚!!
もう
射精そうだぜ

SEX SLAVE

ああ♥ 精子くらさいい
さくらの子宮に
いっぱひいい♥

ヒヒヒ じゃあ
公開種付けだ
溜め込んだ精液
ぶちこんでやるぜ

見られてるぅ
大勢に♥
さくらの
雌豚マンコがチンポ
咥えこんでるトコロぉ♥

子種くらさひいい♥
淫乱さくらを
孕ませてええええ♥

孕みセックス最高
らのオ
イクッ
イクッ
ビクッ!
ビクッ!
ビクッ!

さくらちゃんや
この後
警察が来ることは
知っておろう？
まぁ ワシの手引きで
もう来ることは
ないんじゃが

ワシら全員
実は国籍を移していて
捕まることも連れて行かれる
こともない
ただ
さくらちゃんは
別じゃ…

もしも
元の生活に戻らず
チンポ奴隷になりたいなら
こいつにサインするとええ

さくら 羨ましいわ
そんな若くから
徳山様の奴隷になれる
なんて
これから何十年も
毎日 セックス三昧よ

毎日毎日
おチンポと
セックスぅ♥

そして オークションで売られたさくらは一カ月間レンタルされた

数カ月後

二人とも立派なお腹になったの

今日はイきながら出産させてやるぜ

とんでもねえ雌豚母娘だな
さくら 今日はワシの相手をするんじゃ
はい轟様ぁ♥
さくら ワシのことはパパと呼ぶように言ったろう？
ごめんなさいパパぁ♥
あぁ♥あぁ♥
ズボォ♥
パパのオチンポ♥
SEX SLAVE♥

慶子とヤるのは久々だな
ああぁ♥この立派になったチンポ欲しかったんですう♥
あはぁ もう期待でグチョグチョです♥
ひひひくれてやるぜ！

さすが母娘
尻の振り方が
そっくりじゃわい
ボテ腹なのに
こんなケツ
振ってよ
こいつら
母娘揃って
本物の淫乱だな
ぐふふ
その通り
さあ ここからが
出産セックス
本番じゃ
ヒヒヒ…

子宮口
届いてるのに
押し込んでくる
ま…まさか……
ズズッ!!
赤ちゃんいるのに
子宮にチンポを…
あ!!
ズズッ!!
ズズッ♥
ズブッ!!
ぱぱ♥
ぱぱ♥

赤ちゃん動いて
あああ♥
ひゅごひいいい♥

子宮れ
チンポと
赤ちゃんがああ♥

この赤ん坊
チンポで
遊んでおるわい！

生まれる前から
もう淫乱じゃな

こんなろ
初めてええ！

狂うううう
狂っひゃうう!!

そう言いながら
腰を止められんとは
好き者め！

ひゅごいろぉ♥
赤ちゃんも
チンポもぉぉ♥

暴れてるぅ♥
暴れてるうううチンポも
赤ちゃんもぉほ♥

ククク…イけよ
この変態が

赤ちゃんいるのに
凄い激しいひぃい♥
あぁあ♥
凄ひぃい♥
何度もイくぅう♥
ヒヒヒ
そんなに
イイかよ
おチンポ激しいのぉお♥
こ…こんなの初めてかもほぉ♥
羨ましいひい♥
いつもこのチンポ
味わってる さくら
羨ましいろお♥
ククク
いいぜぇ 今度
さくらが使えねえ時
たっぷり
犯ってやるぜ
壊しちまうかも
しれねぇがな
あぁ♥
それ愉しみぃ♥
それ
素敵れすう♥

ガイ様にも内緒で何十回もシているけど
パパとの相性やっぱり最高ぅぅ♥
んぁぁ♥
ギリッ!
ギリッ!
あぁぁ♥痛気持ちイイろぉ♥
乳首母乳漏れちゃうふぅ♥
ぱぱぁ♥
イイのぉ♥
奥ぉ♥
妊娠セックス凄ひいい♥
子宮の突き方絶妙ぅぅ♥
赤ちゃん突かれて何度もイくぅぅぅ♥
ぎゅっ♥
ぎゅっ♥
ぎゅっ♥
ぎゅっ♥
真珠擦り方上手すぎひいいい♥
イっちゃう何度もイちゃうぅぅ♥

産むぅ♥ 産むのぉ♥
パパの精液
孫にかけてへぇぇ♥

イグぅぅ♥
赤ちゃんにガイ様の
精液飲ませてへぇぇ♥

ほれ！
喰らえい！

オラ イケ
豚女！

パパのセーキ
赤ちゃんにかかってるぅ♥

ほれイグイグ♥

ぴくっ
ぴくっ
ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ
ぐぽぐぽ

ブリュンヒルデ
産卵マシン
精液
ぎゅっ!
どくっ!
どくっ!

ゲイ様のチポ
おれイナそう
パパのチポ
美味しいの
ンプッ
んふ
んん
チュポ
チュ
チュプ
チュ
出産セックス
凄い良かったろお
早くまた妊娠
させてえ
もっと激しくても
いいわあ
次は是非
輪姦で出産
させてくらさい
ニチャ
ニチュ
ニチュ
ト呆
ニチャ
ニチュ

そうじゃ シンとの子を孕ませて やってもよいぞ

あんな粗チン 嫌ぁ♥

ガイ様とパパのチンポで さくら孕みたいのぉ♥

ゴゴゴ…

射精止まらない じゃない♥

ドピュルルル!!

ドクッ…

ドクッ…

普段 何されても 勃たないくせに さくらのセックス見ると こんなになるなんて…

ホントあんた イかれてるわ!

いいわよ
たっぷり可愛がって
あげなさい…
ガイ様♥
ガイ様…
新しいオマンコ奴隷を
捕まえました
ああ♥ 嬉しい
今日は一日中
オマンコしてれるのお♥
もうその言葉だけで
さくらオマンコ
グチョグチョですぅ♥
ぐちゅ♥
ぐぷっ♥
終

囚われた美少女捜査官

神代（かみしろ）さくら

THE COMIC

囚われた美少女捜査官 神代(かみしろ)さくら THE COMIC

if ショートストーリー
最終話

著:筑摩十幸

放課後、さくらはいつものように徳山(とくやま)が主催する淫靡なショウに出演させられていた。だが普段よりもおぞましいことに、その日のショウは母の慶子(けいこ)との共演だったのだ。

「うあぁっ、やめて……母様と一緒になんて……うあぁぁん」

「ずっとコイツが欲しかったんだろ。母親の前だからって、気取るなよ」

背後から極太の剛直を媚孔にねじ込んだまま、ガイが嗤(わら)う。

「ああ、さくら……娘は……許してあげてください……責めるなら私を……」

「フフフ、正気のお前を犯すのも久しぶりで、楽しいわい」

慶子を犯しているのは徳山轟(ごう)だ。今日の

ために魔薬を調整してわざわざ理性を回復させたのだ。母娘の悲哀さえも見世物にしようという悪魔的発想である。

「あれが神代慶子とさくらの母娘か。噂通り、いや、それ以上に美しいな」

対面して後ろ手に拘束されている美しくも背徳的な母娘の姿に眼をぎらつかせる。母は喪服、娘は制服というシチュエーションは背徳的で、しかもさくらは憎むべき魔薬捜査官なのだから、ボルテージは上がり溜飲も下がるというものだ。

「久しぶりの再会だ。俺のチンポで立派な牝になった姿を見てもらえよ。お前の身体は知り尽くしているからな」

浅く深く抜き差ししては、さくらの感じやすい箇所を責め立てる黒人青年。ガイの超巨根は挿入されるたびにひりつくような痛みを感じるのだが、やがてそれが狂おしい快美へと変わるのが恐ろしい。

「やめて……うう……抜きなさいっ……あぁぁっ」

ヌプッ……ジュプッ……ズプズプズプゥッ！

学園でもガイは手下を使って様々な色責めを仕掛けてきた。そのくせ絶頂させることはなく、魔薬の禁断症状も加わって、さくらの肉体は極限まで焦らされ、蕩けきっていた。そこを巨根にこね回されて、こみ上げる肉悦にさくらは苦しげに身を仰け反らせた。

「ンあぁぁっ！　負けない……私は……あぁぁう……まだ……あぁむっ」

その状態でもさくらは首を横に振って堪え続ける。今の状況を考えれば驚異的な精神力だと言えるだろう。

「ああ、さくら……私のためにあなたまで巻き込んで……ごめんなさい……ンあぁっ」

「大丈夫よ、母様……負けちゃダメ……きっと助けがくるわ……あぁぁンっ」

激しく責め立てられながらも、生け贄母娘は互いを励まし合い、懸命に耐え続けていた。

「フム、親子の愛はたいしたものじゃ。だがこれはどうかな」

徳山とガイは一旦離れると、すぐに奇妙な張り形を手にして戻ってきた。U字型に湾曲した両端に毒々しいピンク色の亀頭が取りつけられた、レズ用双頭のバイブだった。

「はあ、はあ……そ、そんなモノ使うなぁ……はあはあ」

「大好きな母親と一つになれるのじゃ。嬉しかろう？　グフフフ」

嘲笑いながら双頭の凶器を、母と娘の蜜孔にズブズブと沈めてくる。

「う、ううぁ……やめて……母様と……なんて……いやぁっ」

「さくらと……ああぁ……娘とこんなこと……ああ、だめぇ」

近親相姦の背徳感にイヤイヤと首を横に振っても、調教され、淫欲に泥濘（ぬかる）んだ粘膜はいとも簡単におぞましい淫具を呑み込んでしまう。さらに根元まで埋め込まれた双

頭バイブはシュウッと音がして亀頭部が膨らんでくるではないか。
「うあああ……中で……大きくなって……くうっ……抜いてぇっ」
「もう遅いわい。しっかりつながったぞ」
「簡単には抜けないからな、たっぷり楽しめよ」
ヴヴヴヴ〜〜〜〜〜ンッ！
ガイがリモコンを操作すると羽虫のような唸りと共に責め具が振動を開始する。
「あひぃっ！　そんなぁっ！」
「い、いやぁっ！　とめて、とめてぇっ！」
子宮に食い込む快楽振動から逃れようと、身を捩り腰を振り立てる美母娘。その直後、
「あきゃぅっ！　な、何⁉」
「熱い……っ！　あひぃぃんっ！」
ピュルルッと体内に熱い迸(ほとばし)りを感じてさらなる悲鳴を搾り取られた。
「言い忘れておったが、激しく動いたり強く締めつけると相手側に魔薬エンジェルダストが噴き出す仕組みになっておる。気をつけることじゃ」
「ま、魔薬ですって……あぁぁっ」
淫虐な拷問具に急所を責め立てられ惑乱の恥声が噴き上がる。魔薬で爛(ただ)れた牝肉はさらに感度を増し、追い込まれた母娘は黒髪を振り乱し、ほの白い裸身をくねらせる。そのたびにピアスを施された双乳が擦れ合い、双頭バイブが互いの秘奥を抉ってダメージを深めてしまう。
「ひあ、ああ……こ、こんなのダメなのに……ああ、さくら……ああぁ〜〜〜〜ンっ」

「か、母様……そんなに動いたら……魔薬が……あぁぁうぅっ」
次第に理性を蕩かされ、肉体の抑制が利かなくなる。吊られた白足袋とローファーの爪先がピクピク痙攣しながらキュウッと丸まったり反り返ったりを繰り返した。
「グフフ、感じてきたな」
「本当に仲のいい親子じゃ、フヒヒ」
秘唇をくつろげて、さくらと慶子の媚肉を衆目に晒す陵辱者たち。母の熟れた鮭紅色の柔襞と娘の初々しい桃色の果肉が、淫らな蜜をしとどに溢れさせながら、責め具で連結されて、互いを責め合う様は、インモラルな昂奮を呼び起こさずにはいられない。
「フフフ、素晴らしいな。あの神代母娘のSMショウが観られるとは」
「これほど美しい母娘を奴隷にできるとは、なんとも羨ましい」
観客のぎらつく視線が交互に秘園に突き刺さるのを感じて、さくらと慶子は激烈な羞恥に身を捩り、腰を捻る。しかし今の二人にとって、その恥辱すらもが被虐の悦楽を呼ぶ媚薬なのだ。
「うぁぁ……はぁはぁぁ……さくら……ど、どうすればいいの……あぁぁむ」
「母様……あぅぅ……お、落ち着いて……堪えないと魔薬が……あぁンっ」
なんとか動きを抑えようとするさくらだが、慶子のほうは次第に淫欲の渦に呑み込まれつつあった。瞳はどんよりと曇り、喘ぐ唇も色っぽく艶めいてくる。

「逆らっても無駄なことじゃ。ほれほれっ、いくぞさくらちゃん」
背後の徳山が剛直をアヌスに押し当ててくる。
「慶子は儂と再婚する。つまりお義父様のチンポというわけじゃな」
「さ、再婚なんて許さない……はううっ、お尻はやめてっ……いやぁっ……あぁぁ〜〜〜〜ッ！」
魔薬浣腸で何度も気が狂うような肉悦を刻まれた肛門は、今やさくらの最大の弱点だ。そこに野太い亀頭が楔のように打ち込まれていく。巨根のガイに開発された肛径は、母を犯した憎い男の男根を簡単に呑み込んでしまう。
「さ、さくらっ……お願いです。娘にこれ以上酷いこと、しないでください」
「オヤジと再婚したら俺は義理の息子になるわけだ。よろしくな、義母さん」
間髪入れずガイが慶子のアヌスを貫く。親子ならではの息の合った絶妙なタイミングだ。
「「あぁぁぁ〜〜〜〜〜〜〜〜ッッ!!」」
哀れな母娘は哀切な悲鳴をデュエットさせ、吊られた裸身をピーンと伸び上がらせた。蜜孔を淫具に犯されているせいで、圧迫感も快楽も凄まじい。
「おお、ムチムチだな義母さんの尻は。さくらとは熟れ方がダンチだぜ」
「さくらちゃんのアナルはキュウキュウ締まって食いちぎられそうじゃ」
母娘の感触の違いを堪能しながら、ガイ

と徳山がニヤリと嗤い合う。これほど魅力的な母と娘を奴隷妻にできるなど、男として最高の気分だ。

「もっと気分を出すのじゃ。もっと儂を、義父様のチンポを感じろ。若さと勢いだけがセックスではないと、教えてやろう」

ズプッ！　ズブリッ！　ズプズプズプゥッ！

野太いペニスが出たり入ったりを繰り返す。そのたびに桃色粘膜が捲り返って引きずり出され、次の瞬間には剛棒に巻き込まれながら押し込まれる。ガイほどのパワーはなくとも海千山千のテクニックの持ち主だ。膣肉とは違う血も肉も骨までも蕩けてしまいそうな深淵な快楽だった。

「うあぁッ……と、義父様だなんて……はあはあ……絶対認めないんだから……あぁう……お尻はもういやぁ……っ」

「そんなこと言いながら、もうイキそうではないか。アナルが悦んでしゃぶりついてくるわい」

抜き差しに加えて、8の字を描くように腰をグラインドさせる。巧みな責めに少女捜査官はメロメロにされてしまう。

「ああっ……気持ちよくなんかない……ああぁ……絶対にイかない……はあはあぁ……イクもんですか……ンあぁぁっ」

なんと言っても相手は父を殺した仇なのだ。そんな男を父と呼ぶなど、死んでもあり得ないことだ。さくらはシリコンの歯並びを食いしばり、首を横に振って堪え続けた。

「よく堪えるのぉ、さすがさくらちゃん。じゃが母親はもう堕ちる寸前じゃぞ」
「ううう……あぁッ！　か、母様……!?」
徳山の言う通り、慶子はガイの巨根に串刺しにされ息も絶え絶えの状態だった。ピクピクと総身に走る痙攣が、断末魔の苦悶を伝えてくる。
「どうだ、俺のチンポは？」
「あ、ああ……と、徳山様より……熱くて、硬くて……ああ、太くて逞しいですわ……はぁうん……さ、さくら……わたし……も、もう……だめぇ……っ」
「素直になったな。オラッ！　息子のチンポでイケよっ！」
獣のような激しさでアヌスを突き上げるガイ。強烈な一撃で慶子の身体が一瞬浮き上がるほど。双乳がタプタプと揺れ踊り、白足袋の爪先がキュッと丸まった。
「あひぃぃっ！　イクッ！　イクゥッ！」
絶叫と共に狂おしいアクメに登り詰める慶子。その直後、連結された双頭バイブからさくらの膣内に向かってエンジェルダストがドプドプッと注ぎ込まれた。
「か、母様……ッ！　ンあひぃ～～～～～～～っ！」
子宮に魔薬を浴びせられ、絹を裂くような悲鳴が迸った。赤熱した石炭にガソリンをぶっかけたように、官能の炎が体内に噴き上がる。
（だ、だめ……このままじゃ……）
まるで射精されたような錯覚に襲われ、さくらは背徳の快楽にヒイッと喉を軋ませ、

汗ばむ肌を粟立たせた。
「ククク、母親は先に堕ちたようじゃぞ」
ここを先途と背後から徳山がアナル責めの剛直を加速させる。
ズブッ！　ジュブッ！　ズブブゥッ！
「う、うあぁ……同時になんて……やめて……あぁぁっ」
薄膜を隔てて擦れ合う双頭バイブと逞しい肉勃起、さらに子宮に浴びせられる新型魔薬の灼熱感。魔悦の津波が何度も何度も押し寄せて、美少女捜査官を狂わせようとする。
「グフフ、息子のチンポは気持ちイイかよ」
「あ、あぁぁ……イ、イイ……慶子は……あぁぁむ……息子のチンポで感じてます……あぁぁ、アナル……イイッ！」

快楽に理性を溶かされてしまったのか、慶子は忘我の表情でヨガリ啼き、腰を振り始めた。
「あぁっ……か、母様……そんなに動かないで……あきゃあぁぁぁんっ！」
必死の訴えも、続けざまに魔薬を子宮に注ぎ込まれて中断させられてしまう。
「残念だな、さくら。慶子はもうお前の声なんか聞いちゃいないぜ。娘より俺のチンポが大事なのさ」
「あぁぁん……そうです……あはぁン……さくらよりも……ガイ様のオチンポが大事です」
「じゃあ、昔の旦那のことも忘れるんだな」
「はぁはぁ……はい……昔の夫のことなんか忘れました……はあン、だから……もっ

と……もっとお尻をズボズボして……慶子を狂わせて……全部忘れさせて……あはぁぁん」

「か、母様……あううっ……だめ……そんなこと言わないで……あぁうン」

ガイとのアナルセックスに没入していく慶子。卑猥な台詞をまき散らし、激しく腰を振るたびに、さくらの子宮におぞましい魔薬がジワジワと送り込まれてくる。

「ククク、どうじゃな、助けたかった母親に薬漬けにされる気分は？」

「ハアハア……ち、ちがう……母様は……む、無理矢理言わされてるだけ……」

「あの幸せそうな顔を見てもそんなことが言えるのかね？」

少女の黒髪をグイッと引き扱(しご)いて母の痴態を直視させる。

（か、母様……）

慶子は首を反らし腰を前後にくねらせながら、甘く鼻を鳴らしガイと舌を絡ませていた。ウットリと蕩けた黒瞳に、娘の姿は映っていない。

（あんなに気持ちよさそうに腰を振って……なんて幸せそうなの……）

溢れ出さんばかりの女の悦びが、連結されたバイブからさくらにも伝わってくる。牡に媚びる柔襞の収縮、子種を求める子宮の蠢き……ガイの巨根に何度も絶頂を味わわされた記憶が蘇り、嫉妬めいた感情すらもが頭をもたげてくる。そんなことを考えてはいけない、敵の罠だとわかっていても、もうどうしようもなかった。

「フフフ、所詮女は牝。チンポには勝てんのじゃ。そして慶子と同じ淫乱マゾの血がさくらちゃんにも流れておるのじゃよ。フフフ」

直腸を突き上げながら耳元で囁く徳山の毒声が、催眠術のようにさくらを淫夢の世界へと誘い、幻惑する。

「うあぁ……あぁぁ……私も……母様と……同じ……牝……あぁぁぁぁ……っ」

ガクリと首が折れ、黒い瞳から大粒の涙がポロポロとこぼれ落ちた。魔薬に冒され朦朧とする潜在意識に、徳山の言葉が絶対の真理のように刷り込まれていく。自分も母と同じく牝であり、悪鬼共には絶対に勝てないのだと思い知らされた。

「ようやく自分が牝だとわかったようだな。ご褒美だぜ」

「あぁぁん、さくらぁ……一緒に堕ちましょう……ちゅっ……ちゅぱっ……くちゅん」

地獄に堕ちた娘を祝福するように、慶子がぽってりと厚い唇を重ねてきた。花びらのように甘く柔らかい唇。今のさくらにそれを押し返す気力は残っていない。

「ンあ、あぁむ……母様……んちゅ……くちゅ……はぁうん」

さくらも積極的に舌と舌を擦り合わせ、注がれる唾液をコクコクと喉を鳴らして飲み干してしまう。母の唾はとても甘く、ボロボロになったさくらの心を癒やすようにスウッと浸透していった。移植されたシリコンの歯並びが母の歯と擦れ合うたび、キ

ュッキュッと哀しく鳴いた。
「その調子でもっとオッパイを擦り合わせるのじゃ」
「あぁぅ……はい……母様……あぁん」
母親に勝るとも劣らない爆乳Gカップに豊胸された乳房が、ブルンブルンと揺れながら擦れ合う。ピアスがぶつかり合って金属音が響くたび、膨らんで乳首から母乳が滴り、背徳的で妖しい快感がゾクゾクと背筋を這い上がって心臓にキュンッと突き刺さった。
「おお、母乳まで出るのか」
「あれがスレイブドールか……たまらん、なんてスケベな身体だ」
母娘の淫気に巻き込まれ、観客たちもさらなる昂奮状態に陥っていく。ムンムンと爛れた熱気が会場に満ちてくる。
（ああ……わたし……母様と……Hなことさせられて……こんな気持ちになるなんて）
それは妖美なレズビアンの快楽。失われていた母娘の絆をこんな倒錯した形で結ばされるとは。たとえここから逃れることができたとしても、もう普通の母娘には戻れないだろうと思うと、これまで堪えてきた心も絶望に染められてしまう。
「母親との相姦レズプレイは気持ちイイかね、さくらちゃん」
肛門にピストンを撃ち込みながら徳山が迫る。さくらの肛門は屈服したように開ききり、ヒクヒクしながら男根にしゃぶりついてしまう。

「はぁ、ああン……か、母様と……相姦レズ……き、気持ちイイです……あふん、むふん……っ」

さくらは陶然としてつぶやきながら、すべてを忘れようとするかのように腰を振り、慶子との禁断のレズプレイにのめり込んでいく。怒りや悲しみよりも諦めの気持ちになってしまうのは、奴隷の哀しい本能だろうか。

「あぁぁんっ……母様……ちゅっ、ちゅっ……母様ぁ……はあぁぁん」

「私の可愛いさくら……ああぁン……イイ……オマンコ……感じるぅ……っ」

ジュブッ……クチュッ……ズブズブッ……グッチュンッ！

双頭バイブが破廉恥な音を立てながら母と娘の秘奥を抉るたび、夥(おびただ)しい愛液が溢れ出す。太腿にまで垂れて流れていくのは濃厚な本気汁だ。

「おお、あの生意気な少女捜査官をここまで調教するとは」

「これがエンジェルダストの効果か。素晴らしいな」

観客たちも昂奮を抑えきれず、さくらと慶子の連結された媚肉に食い入るような視線を向けている。熟れ方に差はあれど、花びらの形がよく似ているのはさすが母娘だ。

「フヒヒヒ、いいぞ。今度はさくらちゃんがお返しするのじゃ。母親の中に魔薬をたっぷりと中出ししてやれ、ほれほれほれぇっ」

パンッ！　パンッ！　パンッ！

徳山が背後からうなじを舐め、乳房をタプタプと揉み込みながら乳首を捻り、さらにこれでもかと肛門をこねくり回す。ペニスだけに頼らない、舌も指も総動員だ。ガイとは違う老練でねちっこい愛撫に、どう対応すればいいのかわからない。

「ンあああぁぁっ！　だめ、だめぇ……そんなにされたら……ああああ……中で擦れて……燃えちゃう……変になっちゃう～～～～ッ！」

体内で擦れ合う義父と母の肉棒が破滅的な快楽を呼び起こす。ズーンズーンと響く衝撃に理性は粉々に砕かれ、身も心もマゾの肉悦に焼き尽くされていく。

「キュウキュウ吸いついてきおる。おりゃ、義父様のザーメンをくらうのじゃっ！」

ドビュッ！　ドビュッ！　ドピュルルル～～～～～～～ッ！

灼熱の精液が粘膜を焼きながら直腸を駆け上がる。稲妻のような快美が脊椎を這い上がり、脳幹を直撃した。

「あきゃあああっ！　熱いぃ……イクイクッ！　お尻で、イっちゃう～～～～～～～～～～ッッ！」

キリキリと背筋を反り返らせて背徳アクメに駆け上がってしまう美少女捜査官。観客に観られていることも忘れて腰をグイッと突き出すと、その拍子に双頭バイブから母の膣内に、魔薬がドビュルルルッと噴き出した。

「あああぁぁ～～～～っ！　さ、さくらぁっ！　おクスリ、きてる……子宮に効くぅ

……おほぉぉぉっっ！」

魔薬を子宮に撃ち込まれて、慶子は白目を剥いて仰け反った。近親相姦の罪悪感すらもが極上の媚薬となって、マゾの悦楽を燃え上がらせる。黒髪が乱れ、喪服からはみ出した乳房がブルンブルンと跳ね揺れた。

「俺も出してやるぜ、義母さん。おらぁッ」

黒い剛棒が根元までアヌスに埋め込まれ、追い打ちの白濁液をドバァッとぶちまける。灼熱の射精は腸管をいっぱいに満たし、浣腸のようにお腹を膨らませるほど大量だ。

「あひぃぃぃっ！　イクイクイクッ！」

今度は慶子がエクスタシーを極めさせられ、痙攣する蜜肉が双頭バイブを食いちぎらんばかりに締めつけた。それがさくらへの魔薬注入射精に変換され、そしてそれがまた慶子へと……。

「あぁぁんっ！　か、母様ぁ……そんなに出されたらぁ……私、ダメになる……もう、だめ……イクッ……ああおぉぉっ……イクの止まらないぃぃっ！　あぁぁぁンっ！」

「さくらのが入ってくるぅ……もっと……ああぁ……もっと奥まで突いて……ああぁ……母様の中に、いっぱい出してぇ……あっ、ああっ、あぁぁんっ！」

母と娘は交互に名前を呼び合いながら、互いを堕落させる地獄のような快楽の無限ループへと突入する。

「さくらちゃんも慶子もガチレズでイキっぱなしじゃな。フフフ」

「相手のこともお構いなしでヨガリまくってやがるぜ」

ガイと徳山が顔を見合わせてニヤリと嗤う。あれほど愛しあい信じあっていた母娘が、肉欲に染まりきって魔薬バイブを挟んで腰を振りあっている。もはや芸術品とも言える妖しく淫らで美しい姿だった。

「フフフ、では誓ってもらおうかの、さくらちゃん。こんな風にな」

耳元で囁きながらリモコンでバイブを最強に操作する。

ヴィヴィヴィヴィ〜〜〜〜〜ンッ！

「うあぁぁぁ……そ、そんなぁ……」

吹き込まれた言葉に一瞬狼狽えるものの、肛門粘膜を捲り返され、母から強烈なピストンを子宮に叩き込まれては堪えられるハズもない。

「アァン……私……か、神代さくらは……人の権利を放棄し……スレイブドールとして……あうう……一生……徳山組に……ご、ご奉仕することを……ち、誓います……」

「私の身体は……オマンコも……お尻の穴も……ああン……徳山組のモノです……ど、どんないやらしい調教も……整形や改造手術も……喜んで……受けることを誓います……もし逆らったら、何をされても文句ありません……あぁ……あぁぁぁぁんっ」

言い終わった瞬間、さくらは二度と這い上がれない奈落に堕ちる転落感と、かつてない被虐の高揚感を同時に感じていた。心臓が絶望に締めつけられ、子宮がキュンと幸福感に縮み上がる。

「あぁぁぁ……母様、イクッ……さくら……イクゥッ！」

イラスト：助三郎

ギクンとおとがいを突き上げ、焦点を失った瞳が天井を向いて見開かれる。

「ああ、さくら……私も……イクゥ〜〜〜〜〜〜〜ッ！」

プッシャアアアアアアッ！

淫獄に堕ちた母と娘は艶やかな黒髪を振り乱し、背筋が折れんばかりに反り返らせながら、潮まで噴いて七色に霞む官能の頂点へと登り詰めていった。

END

二次元ドリームコミックス

囚われた美少女捜査官 神代さくら THE COMIC

【最終話】

漫画
助三郎

原作
筑摩十幸

キャラクター原案
孤裡精

装丁
マイクロハウス
編集
キルタイムコミュニケーション
発行
株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041　東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル1F
●編集部 TEL.03-3551-6147／FAX.03-3551-6146
●営業部 TEL.03-3555-3431／FAX.03-3551-6146

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
©SUKESABURO ©Jukou Tikuma 2024

https://ktcom.jp/

[本作品のご意見、ご感想をお待ちしております]

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなど
どしどしお書きください！　読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎
https://ktcom.jp/goiken/

◎手紙・ハガキの宛先◎
〒104-0041 東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル
（株）キルタイムコミュニケーション　二次元ドリームコミックス感想係

Illustration by 助三郎
『囚われた美少女捜査官 神代さくら THE COMIC 最終話』
©KILL TIME COMMUNICATION

囚われた美少女捜査官

神代さくら

肛虐魔悦の学園

筑摩十幸
挿絵◎孤裡精

リアルドリーム文庫

「絶対に……屈したりなんかしないわ！」
親の仇が潜む学園へ
潜入した美少女捜査官を
魔薬調教の罠が待ち受ける！

原作小説
書籍版・電子書籍版
好評発売中！

KTC 編集・発行 キルタイムコミュニケーション
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル TEL:03-3555-3431(営業) FAX:03-3551-6146

最新情報はオフィシャルサイトへ キルタイムコミュニケーション 検索